
【心霊実録】

御崎 和正

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【心霊実録】

【Nコード】

N5545C

【作者名】

御崎 和正

【あらすじ】

私には霊が視えます。視たなくても視えてしまいます。霊を信じる人はこの世にいたい何人くらい存在するしょうか。多分、少ないと思います。この物語は私の実体験です。霊を信じる人はより霊の存在を確信して下さい。信じない人も世の中には不思議なことがあるんだな、と思って読んで下されば嬉しいです。

はじめに（前書き）

連載ものとなっていますが、短編集みたいなものです。
日記が元となっているので、小説としては読みにくいかもしれません。

小説じゃなきゃ読まないという人も気分転換にどうぞ。

はじめに

この物語は、本当にあった心霊体験です。

幼少の頃から金縛りにあったりしていたのですが、霊能力があると確信したのは中学生の春頃。

友達と地元の心霊スポットに行って幽霊を見た時から、私の人生に心霊現象は当たり前となった。

序章

中学の二年生になろうかという頃、俺は友人に誘われて心霊スポットに幽霊の写真を撮りに行く事となった。

場所は地元の有名な心霊スポット。時間も8時とそこそこ暗い。待ち合わせ時間は8時30分。まだ、かなり余裕がある。近くの公園の自販機でコーラを買って、ベンチに腰掛けコーラを飲む。

心霊スポットに行くのは初めてだったからかなり緊張したものの、幽霊なんて信じてなかった俺は明日はどこに遊びに行こうか、などと呑気な事を考えていた。

しばらくして俺を誘った友人、川石が自転車で行ってきた。右手にはカメラ、左手には懐中電灯。やる気充分みたいだ。

「よ！ 和正。はやく行こうぜ」

そう言っ川石は俺の顔にライトを当てる。ま、まぶしい。

「やめるバカ！」

かなり興奮しているのか、川石は俺の目の前で変な踊りを踊ってから、悪い悪いと言った。

俺たちはまず自転車に二人で乗り、現場を回った。俺が運転し、川石がせわしくカメラのシャッターを切る。

「さあ、幽霊ちゃん幽霊ちゃん。写って下さいねえ」

と言って川石は興奮さめやまぬまま、シャッターを切り続ける。

「幽霊なんて写んないと思うよ」と俺が言つと、

「大丈夫だつて」

なにか大丈夫なのかは不明。

一時間くらい回ったが結局、幽霊は出なかった。

川石は残念そうに公園で帰る用意をしていた。俺も少し残念に思いつつ、ベンチに腰掛けた。

——川石が帰る用意をすませ、俺も帰ろうとしていると、周りで変な音がした。

『パチツ……パチツ』

なんとも音になる。

「ら、ラップ音だよ！ 和正！！ こりゃマジで出るかも」
目を輝かせる川石。

その時、俺は寒気がした。喉がカラカラに乾き、冷や汗が流れ出る。

「イヤな予感がする。川石、帰ろう」

「なに言ってたんだよ！ こんなチャンス、二度……と？」

俺はすでに気付いていたが、川石も気付いたようだ。

音が——音が近づいてくる。

周りにはなにもない。音だけが近づいてくる。

川石は……震えている。無理もない。こんなことあり得るはずがない。

「川石、帰ろう」

「……」

「川石！」

「あ……ああ」

川石が自転車のハンドルに手を掛けた。——と、その時！！ 背中をなにかに強打される感じがした。イヤな感じがする。

後ろを振り向いた。

そこには、とてつもなく異様な光景。

真っ黒な人がゆっくりとこちらに近づいてくる。

表情は解らない。眼がいたい。冷や汗が滝のように流れ出る。男とも女とも解らない真っ黒な人間（？）がゆっくりゆっくりと向かってくる。

ここにいちゃいけない。脳内の最深部がそう告げる。

「川石！ 走るぞ！！」

俺は川石の手を引っ張って全速力で走りだす。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5545c/>

【心霊実録】

2010年10月9日02時55分発行